



Title	浜松における自治会の現状と外国人居住の動向
Author(s)	藤井, 史朗
Description	第3部 自治会活動と外国人 : 静岡県浜松市を事例として
Relation	地域生活における外国人と日本人の関係. 小内透編. (外国人集住地域の社会学的総合研究 ; その7)
Citation	『調査と社会理論』・研究報告書, 27, 87-104
Issue Date	2009-03-24
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/38192
Type	departmental bulletin paper
File Information	5_p87-104.pdf



浜松における自治会の現状と外国人居住の動向

藤井史朗

はじめに

本稿では、浜松市中区に存在する諸自治会の会長さんへの質問紙調査と何名かの自治会長さんへのインタビュー調査を通して、当該地域の自治会組織・活動と、外国人居住、外国人との関わりの現状について概観することを目的とする。

分析対象は、浜松市の中心市街地である中区の全自治会長に郵送して回収された106ケースと、その中で特に調査に応じていただいた15名の自治会長のインタビュー記録である。

ところで、このような調査データを用いる現状分析は、外国人との共生問題を捉える上で、どのような位置を持つのであろうか。

自治会は、日本人にとってもそのままコミュニティというわけにはいかない。コミュニティとは、「地域性と共同性という二つの要件を中心に構成されている社会」¹⁾と定義されているが、現代において、自治会（町内会）が、そこに居住する人々にとって主たる「共同」の場となっているかどうかは疑わしい²⁾。しかし少なくとも自治会は、「地域性」という条件は満たしており、居住状況をはじめ、居住地としての環境保持をめぐる問題やそれへの参加状況などの基本的な姿を捉えることはできる。また特に、定住の場に長く生きる人々から見た、日本に居住する外国人の姿と、交流についての評価を捉えることができるだろう。

以下、浜松市中区の自治会における住民の基本属性を概観し、次に自治会組織と活動の基本的な姿、抱えている課題などを見る。その上で、外国人世帯の動向と関わりのあり方などを見ていく。

第1章 浜松市中区における自治会組織と住民の居住形態

質問紙調査に回答のあった106ケースの自治会の加入世帯数は、最も少ない自治会では23世帯、最も多い自治会では6500世帯となっており、表1の縦%に見られるように、「500～999世帯」が24.5%と多く、「300～499世帯」が18.9%と続くが、その他の規模にもまたがっている。加入世帯比率は、「90～100%未満」が67.9%と最も多く、「80～90%未満」が11.3%だが、「100%」という自治会も14.2%あり、全体に93.4%が80%以上の加入率となっている。自治会規模との関係はあまり明確ではないが、「200～299世帯」規模の自治会の加入率が高い。

表1 世帯数類型別加入世帯比率

	60～70% 未満	70～80% 未満	80～90% 未満	90～100% 未満	100%	総計	実数	縦%
99世帯以下	0.0%	0.0%	20.0%	60.0%	20.0%	100.0%	5	4.7%
100～199世帯	0.0%	7.7%	15.4%	69.2%	7.7%	100.0%	13	12.3%
200～299世帯	0.0%	0.0%	0.0%	86.7%	13.3%	100.0%	15	14.2%
300～499世帯	5.0%	10.0%	0.0%	65.0%	20.0%	100.0%	20	18.9%
500～999世帯	0.0%	3.8%	15.4%	61.5%	19.2%	100.0%	26	24.5%
1000～1499世帯	0.0%	13.3%	20.0%	60.0%	6.7%	100.0%	15	14.2%
1500世帯以上	0.0%	0.0%	16.7%	75.0%	8.3%	100.0%	12	11.3%
総計	0.9%	5.7%	11.3%	67.9%	14.2%	100.0%	106	100.0%

この自治会加入率は、近時どのように変化しているのでしょうか。表2に見るように、全体としては、「ほぼ変わらない」（36.8%）を中心にして、むしろ上昇したとするケースが多い。しかし、この傾向は、各自治体の加入世帯数の違いによって変化があり、小規模の自治会の方に低下したとするケースが多い。特に、「99世帯以下」の自治会では、6割が低下したとしている。最も多い「500～999世帯」の自治会では、「大きく上昇」したとするものが23.1%を占める。

表2 世帯数別加入世帯率の変化傾向

	無回答	大きく 低下	やや 低下	ほぼ変 わらない	やや 上昇	大きく 上昇	総計	実数
99世帯以下	0.0%	20.0%	40.0%	40.0%	0.0%	0.0%	100.0%	5
100～199世帯	0.0%	7.7%	38.5%	46.2%	7.7%	0.0%	100.0%	13
200～299世帯	0.0%	0.0%	20.0%	40.0%	26.7%	13.3%	100.0%	15
300～499世帯	5.0%	5.0%	40.0%	40.0%	5.0%	5.0%	100.0%	20
500～999世帯	0.0%	0.0%	15.4%	34.6%	26.9%	23.1%	100.0%	26
1000～1499世帯	0.0%	0.0%	13.3%	33.3%	46.7%	6.7%	100.0%	15
1500世帯以上	0.0%	0.0%	16.7%	25.0%	50.0%	8.3%	100.0%	12
総計	0.9%	2.8%	24.5%	36.8%	24.5%	10.4%	100.0%	106

この加入世帯率の変化傾向は、加入率によっても異なっている。表3に見られるように、加入率の低い自治会では、これまでも低下してきた結果であり、反対に90%以上の加入率の自治会は、上昇してきたとするケースが多い。

表3 加入世帯比率別加入世帯率の変化傾向

	無回答	大きく 低下	やや 低下	ほぼ変 わらない	やや 上昇	大きく 上昇	総計	実数
60～70%未満	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	1
70～80%未満	0.0%	0.0%	50.0%	33.3%	0.0%	16.7%	100.0%	6
80～90%未満	0.0%	0.0%	16.7%	50.0%	16.7%	16.7%	100.0%	12
90～100%未満	0.0%	2.8%	25.0%	34.7%	27.8%	9.7%	100.0%	72
100%	6.7%	6.7%	13.3%	40.0%	26.7%	6.7%	100.0%	15
総計	0.9%	2.8%	24.5%	36.8%	24.5%	10.4%	100.0%	106

ところで、これら自治会を構成する各世帯は、長くこの地域に住んできている層であろうか、それとも新来住層であろうか。表4のように、全体としては、「地付き層が多い」とする自治会が43.4%、「ほとんど地付き層」と合わせ、57.6%が地付き層中心である。これには、浜松市の中心部である中区の特徴が現れている。他方、「新来住層が多い」は20.8%、「ほとんど新来住層」は6.6%と、新来住層中心の自治会は、27.4%ある。これらの傾向は、自治会の世帯数規模と大きく関連してお

り、小規模の自治会では、地付き層が多く、特に「99世帯以下」の自治会では、地付き層中心が100%となっている。逆に、「1500世帯以上」の自治会では、3分の2が新来住層中心であり、いわば新興住宅地であることがわかる。

表4 世帯数別住民構成

	無回答	ほとんど 地付き層	地付き層 が多い	半々	新来住層 が多い	ほとんど 新来住層	その他	総計	実数
99世帯以下	0.0%	80.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	5
100～199世帯	0.0%	30.8%	53.8%	7.7%	7.7%	0.0%	0.0%	100.0%	13
200～299世帯	0.0%	6.7%	60.0%	0.0%	20.0%	0.0%	13.3%	100.0%	15
300～499世帯	5.0%	25.0%	45.0%	10.0%	10.0%	0.0%	5.0%	100.0%	20
500～999世帯	0.0%	3.8%	34.6%	15.4%	19.2%	23.1%	3.8%	100.0%	26
1000～1499世帯	0.0%	0.0%	60.0%	13.3%	20.0%	6.7%	0.0%	100.0%	15
1500世帯以上	0.0%	0.0%	16.7%	16.7%	66.7%	0.0%	0.0%	100.0%	12
総計	0.9%	14.2%	43.4%	10.4%	20.8%	6.6%	3.8%	100.0%	106

次に、これら世帯の住居形態はどのようなものであろうか。表5に見るように、全体に「持ち家（一戸建）」が77.4%を占めている。ここにも旧町の中心に当たる中区の特徴が見られる。次に多いのは、「賃貸アパート・マンション」だが、これは14.1%にとどまり、その他の形態はきわめて少ない。世帯規模別には、やはり地付き層の多い小規模自治会で「持ち家」の比率が高く、「500～999世帯」、「1000～1499世帯」規模の自治会に「賃貸アパート・マンション」が多い。ところが、「1500世帯以上」の自治会では、「持ち家（一戸建）」が多くなる。

表5 世帯数別住居形態

	無回答	持ち家 (一戸建)	持ち家 (分譲マン ション)	賃貸アパー ト・マン ション	公団 アパート	その他	総計	実数
99世帯以下	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	5
100～199世帯	0.0%	76.9%	7.7%	0.0%	7.7%	7.7%	100.0%	13
200～299世帯	0.0%	93.3%	0.0%	6.7%	0.0%	0.0%	100.0%	15
300～499世帯	5.0%	70.0%	5.0%	15.0%	0.0%	5.0%	100.0%	20
500～999世帯	0.0%	65.4%	7.7%	23.1%	3.8%	0.0%	100.0%	26
1000～1499世帯	0.0%	80.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	100.0%	15
1500世帯以上	0.0%	83.3%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	100.0%	12
総計	0.9%	77.4%	3.7%	14.1%	1.9%	1.9%	100.0%	106

この点は、先の住民構成別に見ていくとより明瞭になる（表6）。見られるように、「ほとんど地付き層」の自治会では、「持ち家（一戸建）」が100.0%であり、「地付き層が多い」自治会でも91.3%が「持ち家（一戸建）」となっている。これに対して、新来住層中心の自治会では、「賃貸アパート・マンション」が多くなり、特に「ほとんど新来住層」の自治会では、71.4%を占めている。

表6 住民構成別住居形態

	無回答	持ち家 (一戸建)	持ち家 (分譲マン ション)	賃貸アパー ト・マン ション	公団 アパート	その他	総計	実数
無回答	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	1
ほとんど地付き層	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	15
地付き層が多い	0.0%	91.3%	4.4%	2.2%	2.2%	0.0%	100.0%	46
半々	0.0%	72.7%	9.1%	18.2%	0.0%	0.0%	100.0%	11
新来住層が多い	0.0%	59.1%	4.5%	31.8%	0.0%	4.5%	100.0%	22
ほとんど新来住層	0.0%	28.6%	0.0%	71.4%	0.0%	0.0%	100.0%	7
その他	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	25.0%	25.0%	100.0%	4
総計	0.9%	77.4%	3.7%	14.1%	1.9%	1.9%	100.0%	106

以上のように、浜松市中区の自治会は、全体に地付き層の住民が多く、それ故また持ち家（一戸建）の住居形態が多い。しかし、特に新興住宅を含むと見られる大規模な自治会では、新来住層による賃貸アパート・マンションの住居も少なくない。また、自治会加盟率は、全体に90%以上が多く、しかも近時その比率は上がる傾向がある。

第2章 自治会組織と活動形態

次に、浜松市中区の自治会の組織と活動の基本的特徴についてみていこう。

まず、自治会規約の有無については、表7に見られるように、ないとする自治会は3ケースにとどまる。また規約のない自治会は、規模の小さいところに見られる。

表7 世帯数別自治会規約の有無

	あり	なし	総計	実数
99世帯以下	80.0%	20.0%	100.0%	5
100～199世帯	100.0%	0.0%	100.0%	13
200～299世帯	86.7%	13.3%	100.0%	15
300～499世帯	100.0%	0.0%	100.0%	20
500～999世帯	100.0%	0.0%	100.0%	26
1000～1499世帯	100.0%	0.0%	100.0%	15
1500世帯以上	100.0%	0.0%	100.0%	12
総計	97.2%	2.8%	100.0%	106

この点、住民構成別に見るとわかるように、規約のない自治会は、地付き層中心の自治会であることがわかる（表8）。いわば、昔ながらの人々の間で特に規約を作ることなく自治会組織が保たれているものといえる。

表8 住民構成別自治会規約の有無

	あり	なし	総計	実数
無回答	100.0%	0.0%	100.0%	1
ほとんど地付き層	93.3%	6.7%	100.0%	15
地付き層が多い	95.7%	4.3%	100.0%	46
半々	100.0%	0.0%	100.0%	11
新来住層が多い	100.0%	0.0%	100.0%	22
ほとんど新来住層	100.0%	0.0%	100.0%	7
その他	100.0%	0.0%	100.0%	4
総計	97.2%	2.8%	100.0%	106

これらの自治会は、表9に見られるように、3分の2の自治会が共有財産を持っている。特に「なし」と明言しているのは、19.8%であり、多くの自治会が何らかの共有財産を持っていると思われる。

表9 住民構成別共有財産の有無

	無回答	あり	なし	総計	実数
無回答	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	1
ほとんど地付き層	20.0%	66.7%	13.3%	100.0%	15
地付き層が多い	13.0%	67.4%	19.6%	100.0%	46
半々	18.2%	63.6%	18.2%	100.0%	11
新来住層が多い	9.1%	77.3%	13.6%	100.0%	22
ほとんど新来住層	28.6%	42.9%	28.6%	100.0%	7
その他	0.0%	50.0%	50.0%	100.0%	4
総計	14.2%	66.0%	19.8%	100.0%	106

共有財産の中身は、表10に見られるように、「集会所」が63.2%の自治会にあり、「行事用具」(39.6%)、「敷地」(29.2%)などが多い。「神社」を持っている自治会も13ケース(12.3%)ある。「行事用具」には、浜松まつりの凧や御殿屋台なども想定される。

表10 保有する共有財産の種類

共有林	共有田・畑	用水路	神社	行事用具	葬儀用具	集会所	敷地	その他	総数
1	0	0	13	42	0	67	31	24	106
0.9	0.0	0.0	12.3	39.6	0.0	63.2	29.2	22.6	100.0

自治会費については、表11に見られるように、月「500～999円」の範囲が41.5%と多く、その前後がほとんどである。自治会費の額は、地付き層の多い自治会ほど高くなっている傾向がある。

表11 住民構成別月額自治会費

	無回答	～499円	500～999円	1000～1499円	1500円～	その他	総計	実数
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	1
ほとんど地付き層	6.7%	20.0%	26.7%	33.3%	6.7%	6.7%	100.0%	15
地付き層が多い	2.2%	26.1%	43.5%	21.7%	2.2%	4.3%	100.0%	46
半々	9.1%	18.2%	54.5%	18.2%	0.0%	0.0%	100.0%	11
新来住層が多い	0.0%	31.8%	50.0%	13.6%	0.0%	4.5%	100.0%	22
ほとんど新来住層	0.0%	57.1%	28.6%	0.0%	0.0%	14.3%	100.0%	7
その他	0.0%	0.0%	25.0%	75.0%	0.0%	0.0%	100.0%	4
総計	2.8%	26.4%	41.5%	21.7%	1.9%	5.7%	100.0%	106

自治会長の選出方法は、「役員による選出」が39.6%と最も多く、「選考委員会」(25.5%)、「選出役員の互選」(11.3%)など、全体に4分の3以上が間接選挙によっている。「全世帯での選挙」とする自治会は、12.3%だが、地付き層中心の自治会にそうした方法を採用ところが多い。

表12 住民構成別自治会長選出方法

	無回答	全世帯での選挙	役員による選出	選考委員会	選出役員の互選	全世帯の持ち回り	その他	総計	実数
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	1
ほとんど地付き層	6.7%	13.3%	53.3%	6.7%	13.3%	0.0%	6.7%	100.0%	15
地付き層が多い	2.2%	19.6%	34.7%	26.0%	8.7%	2.2%	6.5%	100.0%	46
半々	0.0%	0.0%	36.4%	36.4%	18.2%	0.0%	9.1%	100.0%	11
新来住層が多い	0.0%	4.5%	50.0%	27.2%	13.6%	0.0%	4.5%	100.0%	22
ほとんど新来住層	0.0%	0.0%	28.6%	42.9%	0.0%	0.0%	28.6%	100.0%	7
その他	0.0%	25.0%	25.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%	100.0%	4
総計	1.9%	12.3%	39.6%	25.5%	11.3%	0.9%	8.5%	100.0%	106

特定地域の居住者にとって、自治会の存在が副次的なものになるにつれ、役員の積極的なり手の減少が予想されるが、この点、表13を見ると、「大変困っている」(29.2%)、「多少困っている」(35.8%)など、全体に3分の2の自治会で役員選出に困難を抱えている。「困っていない」とする自治会は17.0%にとどまる。役員選出の困難度は、地付き層の多い自治会でやや多くなっている。「ほとんど新来住層」からなる自治会では、むしろ回り持ちの形が取られるためか「困っていない」とするケースが28.6%と他よりも多い。

表13 住民構成別役員選出の困難度

	無回答	困っていない	多少困っている	大変困っている	年によって異なる	その他	総計	実数
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	1
ほとんど地付き層	0.0%	13.3%	40.0%	40.0%	6.7%	0.0%	100.0%	15
地付き層が多い	6.5%	15.2%	32.6%	28.3%	13.0%	4.3%	100.0%	46
半々	0.0%	18.2%	45.5%	36.4%	0.0%	0.0%	100.0%	11
新来住層が多い	0.0%	18.2%	40.9%	22.7%	18.2%	0.0%	100.0%	22
ほとんど新来住層	0.0%	28.6%	42.9%	14.3%	0.0%	14.3%	100.0%	7
その他	0.0%	25.0%	0.0%	50.0%	25.0%	0.0%	100.0%	4
総計	2.8%	17.0%	35.8%	29.2%	11.3%	3.8%	100.0%	106

自治会役員、特に自治会長の仕事の多忙さについて聞いたのが、表14だが、「特に多忙ではない」とするのは、7ケース(6.6%)にとどまり、「多忙だが仕方ない」(48.1%)、「(多忙すぎるので)仕事の整理が必要」(39.6%)、「多忙で当然」(3.8%)など、圧倒的多数が多忙さを指摘している。特に地付き層の多い自治会では、多忙であるがそれを引き受けようとの姿勢がやや強い。

表14 住民構成別、自治会長の多忙さについての意見

	無回答	多忙で 当然	多忙だが 仕方ない	仕事の整 理が必要	特に多忙 ではない	その他	総計	実数
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	1
ほとんど地付き層	0.0%	6.7%	53.3%	26.7%	13.3%	0.0%	100.0%	15
地付き層が多い	2.2%	0.0%	50.0%	41.3%	6.5%	0.0%	100.0%	46
半々	0.0%	0.0%	54.5%	45.5%	0.0%	0.0%	100.0%	11
新来住層が多い	0.0%	4.5%	40.9%	50.0%	4.5%	0.0%	100.0%	22
ほとんど新来住層	0.0%	28.6%	42.9%	28.6%	0.0%	0.0%	100.0%	7
その他	0.0%	0.0%	50.0%	25.0%	25.0%	0.0%	100.0%	4
総計	0.9%	3.8%	48.1%	39.6%	6.6%	0.9%	100.0%	106

自治会の活動における役員と一般住民の関係のあり方について聞くと、表15のように、一番多いのが、「どちらかという役員中心で活動すべき」（39.6%）であり、「役員中心で活動すべき」（24.5%）がそれに続く。全体に3分の2の自治会が、役員中心の活動であることを肯定している。「住民の納得を得るべき」（17.9%）、「どちらかという住民の納得を得るべき」（8.5%）など、住民の納得を条件とするのは、4分の1にとどまる³⁾。住民構成別に顕著な傾向があるわけではないが、「ほとんど地付き層」の自治会で、「役員中心で活動すべき」が53.3%と特に多く、いわば信頼を前提として実施しているように推測される。なお、新来住層が多い自治会でも、役員中心での活動をしているところが多い。

自治会の活動がどのような機能、役割を果たしているのかについての認識では、表16に見られるように、全体に、「住民相互の親睦」が41.5%と最も多く、「住民の生活環境を整える」（25.5%）、「住民の要望を行政に伝える」（17.9%）、「行政の仕事に協力」（10.4%）がそれに続く。住民構成別に見ると、「住民の生活環境を整える」との回答は、どこでも一定数を占めているが、「住民相互の親睦」は、「ほとんど地付き層」（53.3%）、「ほとんど新来住層」（71.4%）の両極に多く、反対に、「住民の要望を行政に伝える」は、地付き層、新来住層が混在している自治会に多い、という特徴がある。

表15 住民構成別、組織活動のスタイルについての意見

	無回答	役員中心で 活動すべき	どちらかとい う役員中心 で活動すべき	住民の納得 を得るべき	どちらかとい う住民の納 得を得るべき	どちらとも いえない	総計	実数
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	1
ほとんど地付き層	0.0%	53.3%	6.7%	20.0%	13.3%	6.7%	100.0%	15
地付き層が多い	6.5%	21.7%	37.0%	23.9%	4.3%	6.5%	100.0%	46
半々	0.0%	9.1%	54.5%	18.2%	18.2%	0.0%	100.0%	11
新来住層が多い	0.0%	22.7%	54.5%	4.5%	9.1%	9.1%	100.0%	22
ほとんど新来住層	0.0%	14.3%	57.1%	14.3%	14.3%	0.0%	100.0%	7
その他	0.0%	25.0%	50.0%	25.0%	0.0%	0.0%	100.0%	4
総計	2.8%	24.5%	39.6%	17.9%	8.5%	6.6%	100.0%	106

表16 住民構成別、自治会の活動が果たしている最大の機能・役割

	無回答	住民相互の 親睦	住民の要望 を行政に伝 える	行政の仕事 に協力	住民の生活 環境を整え る	その他	総計	実数
無回答	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	1
ほとんど地付き層	6.7%	53.3%	6.7%	20.0%	13.3%	0.0%	100.0%	15
地付き層が多い	2.2%	43.5%	17.4%	10.9%	21.7%	4.3%	100.0%	46
半々	9.1%	18.2%	36.4%	0.0%	36.4%	0.0%	100.0%	11
新来住層が多い	0.0%	27.3%	22.7%	13.6%	36.4%	0.0%	100.0%	22
ほとんど新来住層	0.0%	71.4%	0.0%	0.0%	28.6%	0.0%	100.0%	7
その他	0.0%	50.0%	25.0%	0.0%	25.0%	0.0%	100.0%	4
総計	2.8%	41.5%	17.9%	10.4%	25.5%	1.9%	100.0%	106

ところで、自治会の具体的な活動内容について見るため、「現在特に力を入れている活動」について選択してもらったところ、表17に見られるように、多い順から、「資源回収」(56.6%)、「防犯」(51.9%)、「防災講習」(48.1%)、「祭礼」(44.3%)、「親睦」・「道路管理」(35.8%)、「清掃」(34.9%)、「児童健全育成」(32.1%)、「募金」(31.1%)、「運動会」(25.5%)「広報活動」・「行政への協力」(24.5%)、「高齢者生活援助」・「公園維持」(19.8%) などとなっている。日常生活環境保持から、祭り、子どもの教育環境保持などが主な内容であることがわかる。「ボランティア」は11.3%、「外国人交流」などは、2.8%にとどまっている。

表17 現在特に力を入れている活動（複数回答）

道路管理	防犯	祭礼	運動会	文化活動	緑化活動	資源回収	防災講習	児童健全育成
38	55	47	27	5	8	60	51	34
35.8	51.9	44.3	25.5	4.7	7.5	56.6	48.1	32.1
高齢者生活援助	清掃	公園維持	外国人交流	交通安全	ボランティア	健康診断	広報活動	行政への協力
21	37	21	3	26	12	11	26	26
19.8	34.9	19.8	2.8	24.5	11.3	10.4	24.5	24.5
募金	親睦	とりまとめ	冠婚葬祭	陳情	選挙協力	その他	総計	
33	38	12	6	12	7	21	106	
31.1	35.8	11.3	5.7	11.3	6.6	19.8	100.0	

しかし、「今後特に力を入れていく必要がある活動」については、表18に見られるように、「高齢者生活援助」(37.7%)、「ボランティア」(22.6%)などが約2倍の自治会から選択させており、「外国人交流」をあげる自治会も13.2%と大きく増加している。「親睦」などは、同じように選択されている。

表18 今後特に力を入れていく必要がある活動（複数回答）

道路管理	防犯	祭礼	運動会	文化活動	緑化活動	資源回収	防災講習	児童健全育成
16	30	19	18	13	13	25	37	27
15.1	28.3	17.9	17.0	12.3	12.3	23.6	34.9	25.5
高齢者生活援助	清掃	公園維持	外国人交流	交通安全	ボランティア	健康診断	広報活動	行政への協力
40	17	9	14	25	24	8	17	12
37.7	16.0	8.5	13.2	23.6	22.6	7.5	16.0	11.3
募金	親睦	とりまとめ	冠婚葬祭	陳情	選挙協力	その他	総計	
16	41	14	5	7	6	15	106	
15.1	38.7	13.2	4.7	6.6	5.7	14.2	100.0	

また、現在とりわけ重要な問題・課題について複数選択してもらった結果が、表19であるが、今後特に力を入れていく必要がある活動とも対応して、「高齢化対策」が71.7%と大変多い。それ以外には多い順に、「ゴミ減量」(58.5%)、「青少年育成」(46.2%)、「治安対策」(31.1%) などがあるが、「外国人との共生」も25.5%の自治体で指摘されている。

表19 現在とりわけ重要な問題・課題（複数回答）

下水道	地価高騰	地価下落	工業団地造成	道路網整備	鉄道網整備	商業振興	農業振興	農業後継者対策
6	1	3	0	19	0	17	0	1
5.7%	0.9%	2.8%	0.0%	17.9%	0.0%	16.0%	0.0%	0.9%
工業振興	観光開発	高齢化対策	外国人との共生	宅地造成	駅前開発	住宅団地造成	青少年育成	緑地保全
0	1	76	27	1	6	2	49	10
0.0%	0.9%	71.7%	25.5%	0.9%	5.7%	1.9%	46.2%	9.4%
過疎対策	公園整備	生涯教育振興	土地改良	ゴミ減量	治安対策	その他	総数	
3	24	17	1	62	33	11	106	
2.8%	22.6%	16.0%	0.9%	58.5%	31.1%	10.4%	100.0%	

自治会として、加入世帯住民全体の参加による共同作業はどのように行われているのであろうか。表20のように、全体として60.4%の自治会が共同作業をしている。この実施には住民構成によって顕著な傾向があり、「ほとんど新来住層」からなる自治会では100%行われており、反対に地付き層が多い自治会では、していないところが多い。新しい住民層からなる自治会で、このような作業で連携を作り出そうとしていることがうかがえる。

表20 住民構成別、加入世帯による共同作業実施の有無

	無回答	している	していない	総計	実数
無回答	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	1
ほとんど地付き層	6.7%	46.7%	46.7%	100.0%	15
地付き層が多い	2.2%	52.2%	45.7%	100.0%	46
半々	9.1%	72.7%	18.2%	100.0%	11
新来住層が多い	9.1%	68.2%	22.7%	100.0%	22
ほとんど新来住層	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	7
その他	0.0%	75.0%	25.0%	100.0%	4
総計	4.7%	60.4%	34.9%	100.0%	106

また、その回数は、表21に見られるように、1～2回が共同作業をしている自治会の中での約半数、3～4回が25.7%であるが、5回以上とする自治会も24.3%ある。住民構成による違いはあまり見られない。

表21 住民構成別、共同作業の年間回数

	1回	2回	3～4回	5回以上	総計	実数
ほとんど地付き層	12.5%	25.0%	25.0%	37.5%	100.0%	8
地付き層が多い	22.2%	29.6%	33.3%	14.8%	100.0%	27
半々	22.2%	22.2%	11.1%	44.4%	100.0%	9
新来住層が多い	37.5%	18.8%	31.3%	12.5%	100.0%	16
ほとんど新来住層	14.3%	42.9%	0.0%	42.9%	100.0%	7
その他	0.0%	33.3%	33.3%	33.3%	100.0%	3
総計	22.9%	27.1%	25.7%	24.3%	100.0%	70

このような自治会活動に対し、活発であるか否かについて聞いた結果が表22であるが、活発とする自治会は39.6%で、「どちらともいえない」が半数を占める。「不活発」とするのは7.5%にとどまる。住民構成別に見ると、活発であるとするのは、地付き層と新来住層の混在する自治体に多く、「ほとんど新来住層」からなる自治会では、「不活発」が28.6%と多い。

表22 住民構成別、自治会活動は活発か？

	活発	不活発	どちらとも いえない	わからない	総計	実数
無回答	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	1
ほとんど地付き層	33.3%	0.0%	60.0%	6.7%	100.0%	15
地付き層が多い	37.0%	6.5%	56.5%	0.0%	100.0%	46
半々	63.6%	9.1%	27.3%	0.0%	100.0%	11
新来住層が多い	40.9%	9.1%	50.0%	0.0%	100.0%	22
ほとんど新来住層	28.6%	28.6%	28.6%	14.3%	100.0%	7
その他	25.0%	0.0%	75.0%	0.0%	100.0%	4
総計	39.6%	7.5%	50.9%	1.9%	100.0%	106

ところで、浜松市は工業都市であり、有力な企業とその関連企業が多く立地しているが、自治会レベルでこの影響をどのように感じているだろうか。表23を見ると、全体に、「大いにある」とするのは5.7%にとどまり、「少しはある」(7.5%)と合わせても13.2%にとどまる。全体に約8割が「ほとんどない」と回答している。住民構成別には、地付き層と新来住層が「半々」である自治会に、企業の影響があるとするケースが多いが、これらは、その地域に立地している企業との関係であろうと推測される。

表23 住民構成別、地域への企業の影響力の有無

	無回答	大いにある	少しはある	ほとんどない	総計	実数
無回答	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	1
ほとんど地付き層	13.3%	0.0%	20.0%	66.7%	100.0%	15
地付き層が多い	6.5%	4.3%	4.3%	84.8%	100.0%	46
半々	0.0%	18.2%	9.1%	72.7%	100.0%	11
新来住層が多い	9.1%	4.5%	0.0%	86.4%	100.0%	22
ほとんど新来住層	0.0%	0.0%	14.3%	85.7%	100.0%	7
その他	0.0%	25.0%	0.0%	75.0%	100.0%	4
総計	6.6%	5.7%	7.5%	80.2%	100.0%	106

各自治会の会長職継続期間について聞いたのが表24である。ここで分類されている期間は、これまで担当してきたすべての期間の累積であるが、「1年目」が18.9%、「2年目」が17.9%、「3～4年目」が19.8%、「5～9年目」が17.9%、「10～14年目」が17.0%と、約2割ずつある。さすがに、「15年目以上」は、4.7%と少ない。住民構成別には、「ほとんど地付き層」の自治会で長期に自治会長を引き受けているケースが多く、反対に、「ほとんど新来住層」の自治会では、「2年目」が42.9%と短期間のケースが多い。

表24 住民構成別、自治会長継続期間

	無回答	1年目	2年目	3～4年目	5～9年目	10～14年目	15年目以上	総計	実数
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	1
ほとんど地付き層	13.3%	6.7%	13.3%	13.3%	33.3%	20.0%	0.0%	100.0%	15
地付き層が多い	2.2%	28.3%	17.4%	21.7%	10.9%	15.2%	4.3%	100.0%	46
半々	9.1%	27.3%	27.3%	9.1%	0.0%	18.2%	9.1%	100.0%	11
新来住層が多い	0.0%	9.1%	9.1%	22.7%	36.4%	18.2%	4.5%	100.0%	22
ほとんど新来住層	0.0%	14.3%	42.9%	28.6%	0.0%	14.3%	0.0%	100.0%	7
その他	0.0%	0.0%	25.0%	25.0%	25.0%	25.0%	0.0%	100.0%	4
総計	3.8%	18.9%	17.9%	19.8%	17.9%	17.0%	4.7%	100.0%	106

最後に、調査対象となった自治会長の支持政党について見たものが表25である。調査票の中では、「社民党」、「その他」の選択肢もあったがこれらの回答はゼロであった。見られるように、「自民党」が49.6%と半数を占め、次には「支持政党なし」が26.7%と続く。「民主党」は9.5%であり、「公明党」、「共産党」は1%台にとどまっている。住民構成別には、地付き層の多い自治会で「民主党」支持者が一定数見られ、「ほとんど新来住層」の自治会では、「支持政党なし」が71.4%と圧倒的に多い。

表25 住民構成別、自治会長支持政党

	無回答	自民党	民主党	公明党	共産党	支持政党なし	総計	実数
無回答	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	1
ほとんど地付き層	13.3%	60.0%	13.3%	0.0%	0.0%	13.3%	100.0%	15
地付き層が多い	8.7%	45.7%	13.0%	2.2%	2.2%	28.3%	100.0%	46
半々	27.3%	63.6%	0.0%	0.0%	9.1%	0.0%	100.0%	11
新来住層が多い	9.1%	54.5%	9.1%	0.0%	0.0%	27.3%	100.0%	22
ほとんど新来住層	14.3%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	71.4%	100.0%	7
その他	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	100.0%	4
総計	11.4%	49.6%	9.5%	1.0%	1.9%	26.7%	100.0%	106

以上見てきたように、浜松市中区の自治会では、規約などの整備はほぼなされており、また、集会所や行事用具などの共有財産を保有しているところも少なくない。運営は、役員がやむなく請け負う形で、生活環境・教育環境保持や祭りへの対応などの活動を進めていることがわかる。住民の共同作業などの参加はある程度なされており、全く不活発というわけではない。また今後ますます高まる課題として、高齢者問題やボランティア、外国人との共生などがあげられている。住民構成の違いとの関係では、地付き層の多い自治会では、住民のこれまでの了解関係に立って、自治会長などの役員が特定の人に長く任される傾向もあり、反対にほとんど新来住層からなる自治会では、不活発になりがちな傾向に対処しながら、共同作業などを介して親睦を図ろうと努力している様子が見られる。

第3章 外国人世帯の状況と自治会

前章で見てきたように、浜松市中区の各自治会でも、外国人居住者との交流問題などはますます意識される傾向にあったが、事実どのくらいの外国人世帯がこれらの自治会にあるのだろうか。表26に、各自治会の世帯数別に、外国人世帯がどのくらいあるかを示した。全体に、3割の自治会は掌握しておらず、「0世帯」とする自治会も14.2%ある。外国人世帯があるとする自治会は、全体の55.8%であるが、「1～4世帯」とする自治会が16.0%、「10～19世帯」が15.1%と多い。50世帯以上あるとする自治会も10.4%ある。世帯規模別に見ると、やはり500世帯以上の自治会に外国人世帯が50世帯以上とするケースが多く、「1000～1499世帯」の自治会では、20%の自治会が50世帯以上あると答えている。

表26 世帯数別外国人世帯数

	0世帯	1～4世帯	5～9世帯	10～19世帯	20～29世帯	30～49世帯	50～99世帯	100世帯以上	把握していない	総計	実数
99世帯以下	80.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	100.0%	5
100～199世帯	23.1%	15.4%	15.4%	23.1%	7.7%	0.0%	0.0%	0.0%	15.4%	100.0%	13
200～299世帯	6.7%	40.0%	0.0%	6.7%	0.0%	6.7%	0.0%	6.7%	33.3%	100.0%	15
300～499世帯	20.0%	25.0%	0.0%	15.0%	0.0%	10.0%	5.0%	0.0%	25.0%	100.0%	20
500～999世帯	11.5%	3.8%	7.7%	23.1%	7.7%	0.0%	11.5%	3.8%	30.8%	100.0%	26
1000～1499世帯	0.0%	20.0%	6.7%	20.0%	0.0%	13.3%	13.3%	6.7%	20.0%	100.0%	15
1500世帯以上	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	8.3%	8.3%	66.7%	100.0%	12
総計	14.2%	16.0%	6.6%	15.1%	2.8%	4.7%	6.6%	3.8%	30.2%	100.0%	106

これを住民構成別に見てみると、表27に見られるように、地付き層の多い自治会では、外国人世帯も少なく、「ほとんど新来住層」の自治会では、「50～99世帯」あるとするものが42.9%を占めている。

表27 住民構成別、外国人世帯数

	0世帯	1～4世帯	5～9世帯	10～19世帯	20～29世帯	30～49世帯	50～99世帯	100世帯以上	把握していない	総計	実数
無回答	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	1
ほとんど地付き層	26.7%	33.3%	0.0%	13.3%	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	100.0%	15
地付き層が多い	13.0%	17.4%	6.5%	21.7%	4.3%	2.2%	2.2%	2.2%	30.4%	100.0%	46
半々	9.1%	0.0%	9.1%	9.1%	0.0%	0.0%	27.3%	9.1%	36.4%	100.0%	11
新来住層が多い	13.6%	13.6%	4.5%	9.1%	0.0%	9.1%	0.0%	4.5%	45.5%	100.0%	22
ほとんど新来住層	0.0%	0.0%	28.6%	14.3%	0.0%	0.0%	42.9%	0.0%	14.3%	100.0%	7
その他	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	25.0%	0.0%	100.0%	4
総計	14.2%	16.0%	6.6%	15.1%	2.8%	4.7%	6.6%	3.8%	30.2%	100.0%	106

表28 住民構成別、外国人世帯数変動

	無回答	顕著に増加	やや増加	ほとんど増加していない	減少している	その他	総計	実数
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	1
ほとんど地付き層	40.0%	6.7%	26.7%	20.0%	0.0%	6.7%	100.0%	15
地付き層が多い	13.0%	0.0%	28.3%	50.0%	0.0%	8.7%	100.0%	46
半々	0.0%	9.1%	54.5%	27.3%	0.0%	9.1%	100.0%	11
新来住層が多い	13.6%	4.5%	40.9%	31.8%	4.5%	4.5%	100.0%	22
ほとんど新来住層	14.3%	14.3%	42.9%	28.6%	0.0%	0.0%	100.0%	7
その他	0.0%	0.0%	25.0%	50.0%	0.0%	25.0%	100.0%	4
総計	15.1%	3.8%	34.0%	37.7%	0.9%	8.5%	100.0%	106

これら外国人世帯数は、表28に見られるように、37.8%が増加傾向にあるとしている。特に、新来住層の多い自治会にその傾向が強い。

これら外国人世帯の居住形態は、自治会の捉えるところでは、表29に見られるように、「賃貸アパート」をあげる自治会が76ケースと圧倒的に多く、次に公営・公団アパートが11ケースであり、持家と答えているのは、9ケースにとどまる。

表29 住民構成別、外国人居住形態（複数回答）

	持家 (一戸建)	持家 (分譲マンション)	借家 (一戸建)	賃貸 アパート	間借り	公営・公団	社宅・官舎	その他
無回答								
ほとんど地付き層	1	2	1	7	1	1		
地付き層が多い	3	1	3	33	2	3		
半々			1	9	1	2		1
新来住層が多い			1	18		3		1
ほとんど新来住層	1		1	7				
その他		1		2		2		
総計	5	4	7	76	4	11	0	2

各自治会では、これらの外国人世帯にどのような働きかけを行っているのでしょうか。表30に見るように、外国人世帯がある自治会のうち、約3分の1が何らかの働きかけを行っており、12.3%が「積極的に働きかけている」と答えている。地付き層が多い自治体では、「行事があれば声をかける」との働きかけが多く、「ほとんど新来住層」の自治会では、2割の自治会が「積極的に働きかけている」と答えている。

表30 住民構成別、外国人居住者への働きかけ

	無回答	積極的に働きかけている	行事があれば声をかける	特に働きかけていない	その他	総計	実数
ほとんど地付き層	12.5%	0.0%	25.0%	62.5%	0.0%	100.0%	8
地付き層が多い	8.7%	17.4%	26.1%	43.5%	4.3%	100.0%	23
半々	0.0%	10.0%	30.0%	50.0%	10.0%	100.0%	10
新来住層が多い	12.5%	12.5%	12.5%	50.0%	12.5%	100.0%	16
ほとんど新来住層	0.0%	20.0%	0.0%	60.0%	20.0%	100.0%	5
その他	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%	33.3%	100.0%	3
総計	7.7%	12.3%	21.5%	49.2%	9.2%	100.0%	65

表31 外国人世帯数別、外国人居住者への働きかけ

	無回答	積極的に働きかけている	行事があれば声をかける	特に働きかけていない	その他	総計	実数
0世帯	75.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	100.0%	4
1～4世帯	0.0%	10.0%	20.0%	50.0%	20.0%	100.0%	10
5～9世帯	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	33.3%	100.0%	3
10～19世帯	0.0%	18.2%	27.3%	54.5%	0.0%	100.0%	11
20～29世帯	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	1
30～49世帯	0.0%	20.0%	20.0%	40.0%	20.0%	100.0%	5
50～99世帯	0.0%	28.6%	0.0%	71.4%	0.0%	100.0%	7
100世帯以上	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	100.0%	2
把握していない	9.1%	0.0%	27.3%	59.1%	4.5%	100.0%	22
総計	7.7%	12.3%	21.5%	49.2%	9.2%	100.0%	65

各自治会のこのような働きかけのあり方は、表31に見られるように、その自治会における外国人世帯数にはあまり関わりはない。むしろ、それぞれの自治会の固有の考え方によると思われる。

これらの働きかけにおいて、外国人を自治会役員に就任させているとするのは6ケース（5.7%）にとどまっており、「わからない」とするケースが80.2%と多い。

表32 住民構成別、外国人の役員就任の有無

	無回答	ある	ない	わからない	総計	実数
無回答	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	1
ほとんど地付き層	13.3%	0.0%	20.0%	66.7%	100.0%	15
地付き層が多い	6.5%	4.3%	4.3%	84.8%	100.0%	46
半々	0.0%	18.2%	9.1%	72.7%	100.0%	11
新来住層が多い	9.1%	4.5%	0.0%	86.4%	100.0%	22
ほとんど新来住層	0.0%	0.0%	14.3%	85.7%	100.0%	7
その他	0.0%	25.0%	0.0%	75.0%	100.0%	4
総計	6.6%	5.7%	7.5%	80.2%	100.0%	106

以上のように、浜松市中区の自治会において、特に新来住層の多い自治会に外国人世帯が増加しており、各自治会の約3割は、何らかの働きかけを行っている。しかしその多くは、行事への呼びかけを行う、というものであり、自治会役員への就任などまで進めている自治会はまだ限られている。

第4章 住民構成別の自治会の状況

——自治会長インタビューより——

これまで見てきたように、浜松市中区の自治会は、地付き層が多い自治会と、新来住層が多い自治会とでは、組織のあり方や抱えている課題、外国人の状況などにおいて異なる性格を有していた。そして、特に外国人への対応のあり方は、外国人世帯の数などには関わらず、それぞれの自治会の姿勢の違いによっていると見られた。本章では、インタビュー調査に応じてくれた自治会長の話を通して、住民構成や規模において典型的ないくつかの自治会の姿を見ていく。

1. 「ほとんど地付き層」からなる「99世帯以下」のA自治会の事例

A自治会は、浜松市でも中心部の、古くからの商業地域、事業所立地地域である。自治会長は、曾祖父の時代からの浜松定住者である。住宅地としては、持ち家の一軒家がほとんどで世帯数も75と少ない。自治会にはほとんど加入しているが、一軒あるアパートに住んでいる1～2名の人が加入していないという。家屋が古くなって立ち退いたりした後、駐車場になったりして加入世帯が低下している。

自治会の共有財産としては、集会所と浜松まつりの凧や御殿屋台などである。自治会の役職というのは特になく、会計役以外は、会長が一人でやっている状況である。選出は町民全員による選挙を行うが、大体持ち回りでやっている。活動は、資源回収や緑化運動、防災活動などを行って、市からの助成金を得る。5月には、「ゴミゼロデー」の活動を町民全員で行う。浜松まつりについて

は、凧揚げ会との協力で行う。浜松まつりに加えて、夏祭りなども「町民の輪を作るために」行っている。

外国人世帯は現在はゼロだが、歓楽街で働いている外国の人々が、かつては一つのアパートに20人くらい住んでいたという。その頃は、ゴミの問題でルールを守らないなどということはあったが、言葉の問題でなかなか通じずに困ったという。しかし自治会長としては、外国人の浜松への定住については、地域のルールを守ってくれば特に問題はなく、浜松まつりに参加したいという外国人の子どももいたりして、むしろ望ましいと捉えている。

2. 「地付き層が多い」「1000～1499世帯」のB自治会の事例

B自治会は、浜松市の中心部に遠くない典型的な住宅地域にあり、この地域の4つからなる広域自治会のうちの最も大きな一つである。自治会長は浜松生まれであるが、やはり中心部の別の地域からここに移り住んできている。ここはもともと農村部であり、1963年頃から宅地分譲が始まっているため、その当時の働き盛りが入ってきたという形になっている。その人達が高齢化し、72歳以上の高齢者は、1430世帯中の650人を占めている。住民の職業は、サラリーマンが多く、会社役員などの比率も低くないが、現在は年金暮らしの人が多い。この地域にはアパートが少しあるが、そこに住む世帯が自治会未加入になるという。

自治会の共有財産としては、会館や祭りの用具などがある。会館は、市の浄化槽の跡地を住民の募金によって買い取って作ったものである。自治会の主な役職は、総会で選出する。行事としては、8月の夏祭りと2月に会館を利用して発表を行うフェスタがある。発表には、バレエ、民謡、詩吟、大正琴、フォークダンスなどがある。自治会の共同作業としては、年3回の清掃、年4回の防災訓練などがある。しかし、参加者は、班長さんをお願いするなど、限られた人になってしまう傾向もある。出席のチェックなどを試みたこともあるが、反発されたという。自治会の抱えている最重要課題は、高齢者の災害時避難の問題である。防災訓練に際し、身障者・要介護の方の把握を試みたときに、個人情報保護の関係でのクレームが生じたことがある。しかし防災台帳の必要性も認識されており、この更新などが当面の課題であるという。

居住している外国人は、2世帯、2名だけである。アメリカ人の英語教師と、ブラジル人学校の校長先生である。ブラジル人学校の先生からは、公園の使用許可の依頼があった際に、通訳を入れて会話をするなどということがあったという。これらの人とのトラブルというのではない。自治会長としては、外国人の居住に特別の違和感はなく、「お酒が飲めるような状況になったら一番よいのかと思っています」という。困ったことというのは、自治会の会館をブラジル人の人が借りたいと欲してきたときに、日本語が通じなかったことがある。ブラジル人の人たちが、この会館で、クリスマスパーティとか、演芸会などを行うなどしているという。自治会長としては一般的には、住み分けになるのではなく、個々の家同士で繋がりが持てるようになればよいと思っており、「こういう異国の人に対しての、我々がどんな気持ちを持って迎えてやれるかだと思うのですが、それが、まだまだちょっと言葉が通じないと、どの辺までお互いに理解が出来るのかなと思ひまして、その辺がまだ躊躇があるのか

なと思います」と語っている。

3. 「地付き層と新来住層が半々」で、「500～999世帯」のC自治会の事例

C自治会は、浜松市の中心部からJRに沿って西に行ったところにある、加入世帯数750の自治会である。自治会長は、浜松のこの地域の近くでの生まれだが、約20年前にこの地域に移ってきた。この地域は、一戸建てが中心であるが、アパートやワンルームマンションなどもあり、177世帯がここに住んでいるという。この地域には、明治時代から開拓で入ってきた古くからの人と、ここ20年くらいの間に入ってきた人が混在している。外国人世帯はない。自治会長によれば、この地域は中心部に近く、アパートなどの家賃が高いからである。自治会加入世帯率は100%であるが、その意味は、アパート・マンション暮らしの人たちからは、管理会社からその人数分の自治会費を支払ってもらっているということを含んでいる。

C自治会の共有財産としては、浜松まつりで使う御殿屋台と屋台小屋とがある。しかしこの屋台小屋は、昭和20年代に作ったもので、東海地震などを想定すると作り替える必要があり、そのための寄付金を募っている最中である。自治会長の選出は、5人の副会長の互選という形で行っており、会長は、10年近く続けるという流れできている。これについては、公選制にしたかどうかとの意見も出ているが、メリット・デメリットいろいろあり、自治会長としては、熱意を持ってやる人になるような方式が大切であるという。自治会の共同作業としては、年5回、公園の清掃などを行っているが、自治会長の話では、「うちの自治会は結構まとまって、お葬式なんかだったらみんなで応援するし、自治会長とか副会長とかみんな、お通夜とか葬式とか皆出席するし、浜松祭りだとか納涼大会だとか色んな行事あるんでね、そういったかわりが非常に強い」という。

C自治会には外国人世帯がないが、他の自治会の例などから、自治会長は、ゴミ問題、騒音問題、自治会費納入問題などを想定し、もしもこの自治会で対応するとすれば、市が準備している外国語での必要なルールなどを活用するという。またもしも、外国人で自治会活動に熱心な人がいる場合には積極的に迎え入れたいという。これについて自治会長は、自分自身が、外国生活18年という経験に立って、「私がまず先立ってまあコミュニケーションはかるっていうか、ルールをわかっているのがまず先決だと思いますのでね。まあその時になってみなくちゃわからないですけど、まずは自治会組織がどういうもので、会費の問題とか、守ってもらわなくちゃいかなきゃ最低限のルールはこういうもんですよっていう、そういう説明は、きっちり、まあ、することになるでしょうね」と語る。浜松市の対応については、外国人労働者が必要な状況の中で、対応としては「上手くやってくれている」との感想を持っている。

4. 「新来住層が多い」「1000～1499世帯」のD自治会の事例

D自治会は、浜松の中心部の北側にあり、この地域の11ある自治会連合会の一つであり、1470世帯からなる。自治会長は、35年前に、今は浜松市の一部である天竜から浜松の当地に来ている。この地域には、住宅地に一部飲食店街もあり、分譲マンション、賃貸マンションなども増えている、新来住者の多い地域である。これらのマンションは、管理会社の運営で、入居前に自治会加入するが、全体では、80～90%の加入となっている。外国人世帯は、「二階建てくらいのこじんまりしたアパート」などに40世帯くらいあるという。

自治会長は、この地域の12の部の長である部長が相談して選ぶ。自治会の共有財産としては、木造の公民館や祭りの用具があるが、公民館の新築のための建設資金を積み立てている。自治会の共同作業には、年5回の道路側溝や公園の清掃があり、行事としては、納涼祭、体育祭、文化祭などがある。自治会活動は活発であり、そのために役員に働いてもらうよう気遣っている。行事の時のやぐらの組み立てなど若い力が必要なため、部長の中には、40歳代の人も4人いる。外国人での役職者は以前には、組長などについた人がいたという。

日本人の側からの、外国人居住者についての苦情などはゴミの出し方についてのことはあるがそれ以外にはない。反対に、外国人が住むことで、「国際的になったな」という気がするという。何かあったときは、その国の言葉で書いてある書類を市などからもらってきて渡すようにしている。自治会の行事には、少数の外国人が参加している。参加してほしいとは思っているが、大人だと言葉の壁があるので、子どもに呼びかけるなどが必要だと考えている。浜松市全体については、外国の若者に支えられることは必要であり、外国人の増加は自然だと思っているという。

5. 「ほとんど新来住層」からなる「500～999世帯」のE自治会の事例

E自治会は、浜松市の西の、典型的な住宅地にある600世帯の自治会である。それまで隣の自治会と一つであったが、平成2年に、分離して今の自治会となった。現自治会長は、当時市役所の役職者でもあり、この分離推進に関わっている。その理由は、昭和44年頃からの新興住宅地としての人口増加であるが、この機会に自治会長は、自治会費の平等化⁴⁾や、住民の葬式を自治会長がすべて取り仕切るなどのあり方の改善と三年任期の設定、規約の作成などの改革に取り組んだという。現自治会長は、途中三ヶ日町の役員に就任するが、平成17年にここに帰り再び自治会長となり、延べ12年就任している。E自治会は、若い単身者のアパートも多く、高齢者比率は低い。

現自治会長の再就任に対する住民の期待は、浜松まつりの御殿屋台⁵⁾の製作である。そのための建設委員会を立ち上げている。会長職その他の役職は、毎年の組長会役員会での話し合いで決める。新しい住民の多い自治会でもあり、自治会活動はそれほど活発とはいえず、挨拶運動なども呼びかけ、繋がりを付けようと心がけているという。共同作業としては、近接している佐鳴湖のクリーン作戦を年2回行っている。これも現会長が市役所の役員だった昭和61年に取り組んだものである。これには3000人くらい参加するという。道路清掃等は行っていない。自治会の現時点での最重要課題は、防災であるが、そのための名簿の整備については、個人情報保護との関係で問題があるという。

E自治会における外国人世帯数は7世帯あり、すべてブラジル人の家族、単身者である。彼らへは浜松市のポルトガル語の広報を配布している。しかし会員名簿には書いていないこともあり、自治会の役職に就くといったことはなく、また、自治会役員との交際もないという。ブラジル人の人々への働きかけもなく、共同作業に参加することもないという。しかしブラジル人とのトラブルはない。自治会長は、浜松市の対応は、うまく行っていると思っており、特に地域の小学校での外国人との交流に対する教育を評価している。

以上、5つの自治会の事例のうち、外国人世帯があるのは、3自治体であった。これらの事例から見る限りでは、外国人世帯がない自治会も含め、自治会長の意識としては、外国人の浜松への定住、当該自治体への定住に対して、特に否定的なものはなく、むしろ当然のことであり、最小限の

ルールを守ってもらい自然な共生ができれば良い、とする意向である。また、外国人世帯がある自治会においては、特にトラブルはなく、しかし、特に自治会活動への積極的な働きかけもしていない状況である。

注

- 1) 森岡・塩原・本間編『新社会学辞典』（有斐閣）の「コミュニティ」の項目。
- 2) しかし、浜松中心部の旧町など、浜松まつりに連続的に参加しているところでは、この自治会の単位が、コミュニティとなっていると感じさせるものも少なくない。
- 3) なお、この質問は、「住民の意見をいちいち聞いていたら効果的活動はできないから、役員が中心となって活動すべきである」と「住民全体に相談し、時間がかかっても住民の納得が得られるよう努力する」のどちらに近いのか、という形でおこなっている。
- 4) それまでは、「財産家」や「一般家庭」などランクによる自治会費の格差があったという。
- 5) 浜松まつりの夜の出し物は、参加町による御殿屋台の引き回しだが、この御殿屋台は、彫刻による装飾など手がかかっており、高いものでは1億を超えるものもある。